

## 病棟ご案内

病室 19床  
 2床部屋 5部屋 10床  
 個室 洋室 6床 ※12000円/1日  
 和室 2床 ※15000円/1日  
 特室 1床 ※18000円/1日

家族室 和室2部屋 ご家族様がお泊まりいただけます

### 談話室 (ファミリーキッチン)

調理器具が揃っており、自由にご利用いただけます。  
 ご家族様の付き添い食も提供いたします (要予約)

### 浴室 (特殊浴室・機械浴室・一般浴室)

付き添いの方もご入浴できます

### スタッフ

緩和ケア医 常勤2名 非常勤2名  
 看護師 16名  
 薬剤師 1名  
 管理栄養士 1名  
 ビハーラ僧 3名  
 ソーシャルワーカー 1名 ・ 事務 3名  
 ボランティア 約10名

## 交通アクセス



### お車の場合

- ①京都から：国道1号線より  
 国道24号線 (京都駅から約1時間)
- ②大阪から：国道307号線を通って  
 山城大橋を越え、国道24号線を北
- ③奈良から：国道24号線を北へ

### 電車の場合

- ①JR 山城青谷駅下車、徒歩 15分
- ②近鉄 新田辺駅より、タクシーで15分
- ③JR 京田辺駅より、タクシーで15分
- ④JR 城陽駅より、タクシーで15分

**ボランティアさんの募集**  
 あそかの一員として活動していただけるボランティアさんを募集しています。活動の内容は、ティーサーブス・ガーデニング・生花の手入れ・朗読・アロマセラピーなどがあります。院内で活動していただくボランティアさんは、ボランティア研修を受講していただく必要があります。ホームページをご覧ください。お気軽に電話ください。

**見学をご希望の方は**  
 見学をご希望の方は、事前に予約が必要となりますので、まずクリニックまでお電話ください。また各種研修も受け入れておりますので、ホームページをご確認の上、お申し込みください。

## 編集後記

今回は当院の特徴である僧侶の活動を中心に報告をさせていただきます。  
 僧侶が常駐している病院は全国でもめずらしく、新潟県の長岡西病院ビハーラ病棟と、あそかビハーラクリニックのみです。

キリスト教系の病院ではチャプレンと呼ばれる宗教家が活動している病棟が数多くありますが、仏教系の病院は数少なく、ビハーラ活動はまだまだ社会に認知されていないというのが実情です。  
 院内で活動する僧侶は患者さんの思いを最優先に考え、身体がしんどくて話したくないときはあえて訪室を控えるなど様々な配慮をしております。  
 まだまだ僧侶の活動には未熟な部分も数多くありますが、患者さんがその人らしく生き抜けるよう、微力ながらサポートさせていただきます。 (花)

# あそかビハーラクリニック便り

む ゆ う じゆ

第 3 号



2014. 1. 1 発行 あそか第2診療所  
 〒610-0116 京都府城陽市奈島下ノ畔3-3  
 TEL 0774-54-0120 FAX 0774-54-0121  
 E-mail:sinryo@asokavihara.jp



## ビハーラって何?

あそかビハーラクリニックの病院名にもなっている「ビハーラ」という言葉。この言葉は古代インドのサンスクリット語の「vihara」をそのまま仮名表記したものです。ビハーラは、「精舎・僧院」「身心の安らぎ・くつろぎ」「休息の場所」を意味しています。

「精舎・僧院」というのは一般にいわれる「寺院」のことで、お寺は本来、「身心の安らぎの場所」を意味していました。聖徳太子が建立されたと伝えられる四天王寺には「療病院」といわれる現在でいう病院のような施設があったり、「悲田院」といわれる身寄りのない人たちを救護する施設があったり、お寺が医療や介護などの社会福祉の活動を担ってきた歴史があります。まさに寺院は身心の安らぎの場所として機能していました。

しかし、時代の流れの中で仏教と医療や介護といった社会福祉はそれぞれ専門分野化し、各分野の関わりが薄れてまいりました。特に

仏教・僧侶の活動はお葬式が多くなり、仏教＝死というイメージが強く、病院の中で僧侶の姿を見かけることはまずありえないというのが現在の状況です。

そのような中で、仏教がもともと課題としてきた、生・老・病・死の苦悩にこたえるため、医療・介護といった社会福祉の各分野とも連携しようという活動が生まれます。それが「ビハーラ活動」と呼ばれるものです。

浄土真宗本願寺派(西本願寺)では1987年からビハーラ活動が展開され、2008年に、あそかビハーラクリニックが京都府城陽市に誕生しました。仏教が背景となった全国でも大変めずらしいビハーラ病棟。今後の活動が期待されています。

ビハーラについて更に詳しく知りたい方は、「本願寺社会部」のホームページをご覧ください。

# お坊さんのいる病院

～医療と宗教の協働をめざして～

常駐僧侶 花岡 尚 樹

あそかビハーラクリニックには「ビハーラ僧」と呼ばれる僧侶が3名常駐しています。僧侶があたりまえに働いている病院というのは、全国でもあまり例がありません。見学などに来られた方から、「お坊さんって、病院でどんな仕事をしているの？」とよく聞かれます。病院で働くお坊さんの役割って、確かに分かりにくいと思います。そこで今回は、あそかビハーラクリニックの僧侶の活動の一端をご紹介します。

## ビハーラホール 勤行と法話

あそかビハーラクリニックには「ビハーラホール」と呼ばれる宗教的な空間があります。一般の病院にはない、こころ落ち着く空間があそかにはあります。そこでは、毎日の朝と夕方にビハーラ僧による読経と法話があります。もちろん強制ではありません。お参りしたい患者さんやご家族は、自由意志でお参りすることができます。僧侶による法話も、宗教の押しつけにならないよう配慮しながら、患者さんのそのとき、その人の状況に応じた、分かりやすい法話を心がけています。



↑ビハーラホールでの勤行の様子

## 傾 聴



僧侶は宗教的な関わりだけでなく、患者さんやご家族のお悩みも聞かせていただきます。誰かにそばに居てほしいとき、誰かに話を聴いてもらいたいとき。そのようなときは看護師はもちろん、僧侶もお話を聴かせていただきます。解決のつかないお悩みでも、話せば少しはこころが軽くなるものです。僧侶はお部屋で話を聴くときは、宗教にとらわれることなく、ともに悩み、苦しみに耳を傾けるようつとめています。

## 日常のお手伝い

お坊さんは敷居が高い、話しにくいというイメージがありませんか？僧侶は僧衣を脱いで、患者さんの日常の様々なこともお手伝いいたします。ときには患者さ



↑ビハーラ僧と散歩

## 宗教が気になる方へ

当院は西本願寺が母体となっていますが、宗教を強制したり、宗教を制限されることは一切ありません。どのような宗教の方でも入院できますし、宗教や僧侶に関心がないという方でも入院できます。院内で活動する僧侶は、患者さんの思い、患者さんの宗教を尊重した関わりを行っております。僧侶も普段は僧衣を脱いで普段着で活動していますので、僧侶も院内に溶け込んでいます。どのような方でも安心してお過ごしいただけます。

## 環境整備

直接患者さんに触れるわけではありませんが、環境整備も僧侶の重要な役割です。患者さんご家族が過ごしやすい環境を整える。それが患者さんとの信頼関係につながったりもします。

## カンファレンス風景

あそかでは毎日、多職種によるカンファレンスが行われています。患者さんそのご家族を中心に、医師・看護師・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・事務、そして僧侶も入り、今後の方針を決定していきます。一人の患者さんを全人的にケアするには、医師・看護師だけでなく、様々な職種の意見が必要となってきます。僧侶も含め全職種がそれぞれ情報をカンファレンスにもちより、話し合いによって今後の方針を決定していきます。

→カンファレンスの様子



んと一緒に散歩に出たり、ともに食事をしたり。ごくごく日常の生活を支えるお手伝いをさせていただいています。このような日常の関わりの中、患者さんとも打ち解け、抱えているお悩みを話して下さることもあります。

## 子どもたちと

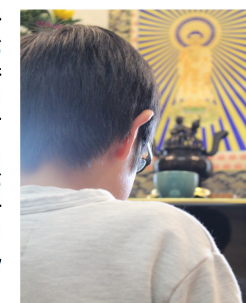
病院に子どもをつれて面会というのは、気をつかうものです。子どもが退屈したり、騒いだり、他の患者さんに迷惑をかけるか…。そんなご心



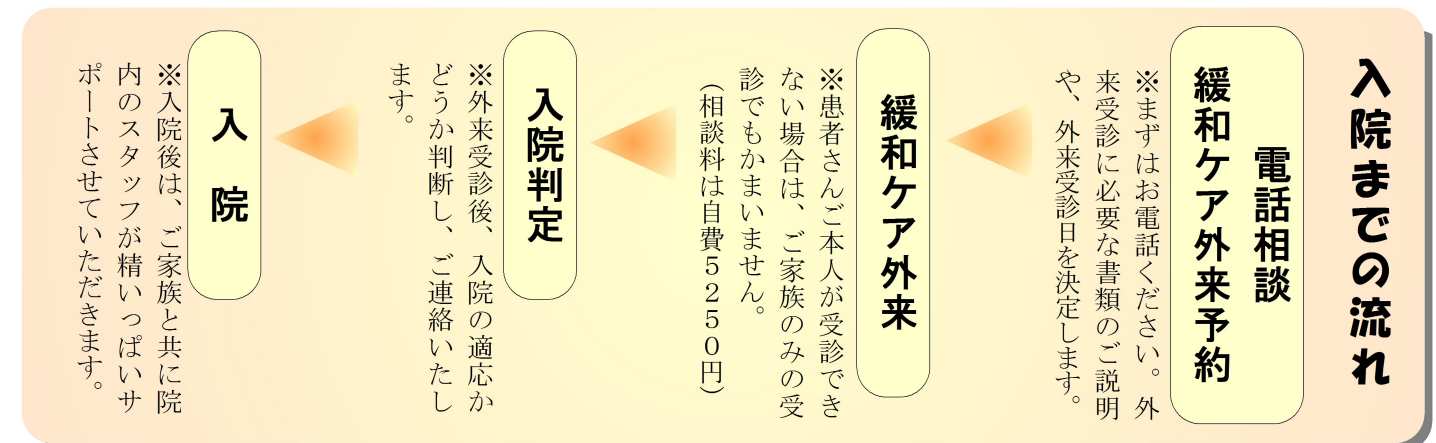
↑子どもをおんぶするビハーラ僧

配も僧侶にお任せください。退屈する子どもたちと散歩に出たり、絵本を読み聞かせしたり、手品を教えたり、子どもたちが「また病院にいきたい」と思えるよう僧侶が関わらせていただきます。ご家族の方も安心

→お参りするお子さん



して付き添っていただけるよう、僧侶がサポートいたします。子どもたちがそばにいることは患者さんにとって支えになります。また、子どもたちにとっても老病死をみつめる、いのちの教育の現場ともなります。



がんでお悩みの方や、入院のご相談、またはご不明な点など お気軽にお電話ください

あそか第2診療所（ビハーラクリニック）

TEL 0774-54-0120 担当：奥田（メディカルソーシャルワーカー）まで